

内 報

(2)

平成 30 年 3 月 15 日

世界救世教 ☉ 之光教団

目次

まえがき	5
教主様への手紙とお返事	7
(教主様へのお伺い)	7
(教主様のお答え)	10
自分の信仰と実践こそが決め手	15
①之光教団 理事長 成井圭市郎	
いづのめ教団役員および職員の皆様へ	18
いづのめ教団 元・教務部自然農法担当次長 原川達雄	

まえがき

今号におきましては、いづのめ教団の信徒の方が、教主様へ質問のお手紙を出され、それに対しての教主様のご返事を掲載させていただきました。

質問の内容は、(1)「教主様のお言葉は、み教えと異なる異質な思想」との喧伝について (2)「グノーシス主義」について (3)「世界救世教をネオ・クリスチャンの宗教にする」について、の3点です。

教主様は、返信の中で率直にご自身のお心、お考えを明らかにしてくださっています。

また、先号に引き続き、成井理事長の所信をお届けします。ここに掲載されたメッセージは、当初専従者に向けて発信されたものです。しかし、全ての信徒の皆様にも、是非ともご一緒に受け止めていただくように心より願う次第です。

最後に、「教主様のお考えは、み教えから外れた“異質な思想”」と題する資料が送られてきたことに対する、原川達雄氏の見解を掲載させていただきました。原川氏は近年まで、いづのめ教団教務部自然農法担当次長の要職にあった方であります。明主様のみ教えを、教主様のご教導によって、新しく受け止めさせていただくよう努めておられます原川氏の姿勢を、大いに学ばせていただきたいと存じます。

教主様

謹啓

教主様におかれましては、寒さ厳しい中、いかがお過ごしでしょうか。

昨年は、平安郷の紅葉会におきまして親しくお目にかかり、また、明主様の御教えとは何か、特に明主様が「メシヤの御名」に込められた御心を縷々ご教導いただきましたこと、改めまして、心より御礼申し上げます。

また、私たちからの様々な質問にも、真摯に、また、ありのままをお伝えくださったこと、誠にありがたく思っております。

あの日の感動、感謝、喜びが胸に深く刻まれております。

信徒一同、教主様と再びお会いすることを心より楽しみにしております。

さて、このたびは、教団の現状の中であって、信徒から様々な質問や疑問が出てきておりますので、誠に僭越ではございますが、教主様にお伝えさせていただくことをお許しいただきたく、なにとぞ、よろしく願い申し上げます。

執行部や、包括役員会の作成した文書などを拝見しますと、教主様との対話やご面会が拒否されていることや、質問を投げかけてもお返事をいただけないが、粘り強くお願いしていく旨記されておりますが、あたかも、教主様は理不尽であるというイメージを作り上げる目的をもっているとしたか思えません。執行部のやり方にはあきれられるばかりです。

教主様への「尾行・盗聴・盗撮」を実行、容認されたり、また、異質な思想であると断定しているばかりでなく、その異常とも思える姿勢を改めていないのに、どのようにして教主様がそのような方々とお会いになったり、質問に答えられるというのでしょうか。

教主様がいかに心を込めて何を仰ろうとも、自分たちの都合の良いような受け止めしかせず、また、揚げ足をとってくることでしょう。ご心中お察し申し上げます。

ですから、私たちは、質問や疑問等にお答えいただいた暁には、事実を歪曲したり、自分たちに都合の良いような解釈等を加えるなどのことは一切せ

ず、そのありのままのお言葉を信徒と共に共有させていただきますので、可能な範囲でお言葉を賜れば、これ以上ありがたいことはありません。

お伺いさせていただきたい事項は3つです。

まず一つ目ですが、近頃、教団のほうから、「教主様のお言葉は御教えとは異なる異質な思想である」とさかんに宣伝されております。

また、⑤之光教団は、教主様のお言葉を実践しているがゆえに、「教義に反している」と断罪されました。

そもそも、「教義の大綱を定める」教主様のお言葉が、御教えと異なることや、教義に反するということはありませんので、このようなことの荒唐無稽さに信徒一同言葉もありません。

宗教を隠しているMOAのほうがよくばど教義から外れているのではないかと、多くの信徒は首をかしげています。

信徒は、執行部からの一方的な、「お言葉は御教えと異なる異質な思想だ」というあり得ない主張に驚いていると同時に、このことにつき、教主様側からのお考えが一切耳に届かず、とまどいと執行部に対する強い不信感を募らせております。

そこで、誠に申し訳ないことではありますが、「お言葉は御教えと異なる異質な思想だ」ということにつき、教義の大綱を定めるお立場の教主様からの御見解を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

二つ目にお伺いしたいことは、グノーシス主義についてでございます。

教主様はグノーシス思想の影響を受けているのだ、だから異質な思想なのだ、という執行部やMOAの主張をよく耳にいたします。

これに対して、私たち信徒は未だに一度も教主様からの御見解を聞かせていただいたことがないため、この機会にぜひお伺いさせていただきたいと思っております。教主様はグノーシス思想の影響を受けていらっしゃるのでしょうか。

三つ目ですが、教主様に関わることとしまして、先般、教団から私たち信徒総代全員に送られた文書の中で、真明様が、世界救世教をネオ・クリスチャンの宗教にする、というご発言をされたようだ、との記述がありました。これは事実なのでしょうか。

このことにつきましても、真明様ご自身からの御見解を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

特に、二つ目と三つ目につきましては、もし事実でないならば、教主様や真明様に対する大変な名誉の毀損^{きそん}でありますので、現在の執行部や、包括役員会という場がいかなる性質のものかを理解する上においても、お答えいただければありがたく思っております。

本来であれば、このような差し出がましいお願いをすべきでないことは重々承知しておりますが、一方的で偏った情報しか届かない現状にあって、やむを得ずこのような形でご連絡を取らせていただきました。

いただくご教導を、信徒みなで研鑽^{けんざん}させていただき、教主様のお言葉を通して、より一層明主様の御心^{ごこころ}に近づかせていただく努力を積み重ねてまいりますので、このようなご無礼なふるまいをお許しくださいます。

今後も、教主様を批判する意図^{いどう}で、一方的で偏った情報が信徒のもとに届くと想像しております。誠に僭越^{けんえつ}ではございますが、信徒のとまどいを和らげるために、その都度教主様にこのような形でお伺いをさせていただくこともあろうかと思いますが、ご容赦^{ごようせつ}くださいませ。

まだまだ寒い日々が続きますが、教主様と御宗家の皆様には、お身体なにとぞお大事になさってくださいませ。

謹白

平成 30 年 2 月 8 日

北陸関西教区信徒総代 野呂恵美子
中野 利栄

野呂恵美子様
中野 利栄様

お手紙を拝見して

この度は、信徒の皆様を代表しての、お心こもるお手紙をいただき、ありがとうございました。

信徒の皆様が常日頃、明主様に^{なら}倣い、自らの内におられる神様に心を向け、神様のみ心に少しでも近づこうと努めていらっしゃることは、誠に尊いお姿であり、私も皆様と共に、そのことをまず第一に心掛けなければ、と思っております。

教団の中には、私の言葉に対して心を閉ざし、私の言葉を否定的に捉えておられる方々がいらっしゃいますが、皆様は、私の言葉に対して心を開いてくださり、明主様のみ心を求めるための糸口として、私の言葉を肯定的に受けとめてくださっていることを大変ありがたく思っております。

私は、そうした皆様が、教団内で流されている、私に対する否定的な情報を見聞きされる中で、様々な質問や疑問を持っていらっしゃる、そのことについて率直な思いを述べてくださったことに感謝し、皆様に対して私なりのお返事をさせていただきます。

まず一つ目のご質問の、「私の言葉は御教えと異なる異質な思想だ」という宣伝についてですが、もちろん私は、異質な思想を述べているのではありません。

そもそも私は、ある思想を訴えているのではありません。

ある思想を皆様に押し付け、その思想を教団全体に一律に広めようとしているのではありません。

そうした、言わばお仕着せの方法では、一人ひとり、個々別々の大切な心を持たされている私どもにとって、明主様のみ心を会得させていただくこと

は至難の業だからです。

明主様は、いろいろな御教えの中で、本教はあらゆる主義思想を包含するものである旨、お説きくださっています。

例えば、明主様は、「私の宗教はどんな主義でも受け込むようにしている」と仰せになり、また、「大乘的本教には宗教、哲学、政治、経済、教育、芸術、医学等々、人間に必要なものはことごとく包含されており、ちょうど太陽があらゆる色をコントロールして白一色であるごとく、本教は昼の宗教であり、太陽の救いである」と御教えくださいました。

明主様にとって異質な思想などないはずです。排斥すべき思想などないはずです。

私は、今回の一連の動きを通して、改めて明主様の偉大さを確認させていただくとともに、明主様が「大空の広きを仰ぎて憶^{おも}ふかな限りも知らぬ大御^{おおみ}心^{こころ}を」とお詠^よみになった、その主神の「大御心」の一端に触れさせていただいた思いです。

そのことに感謝し、主神の大御心にお仕えさせていただき喜びを皆様と共にさせていただきたいと思っております。

私は、明主様が心から主神を信頼し、お讃えし、主神の大御心に従ってお仕えしておられる、そのご姿勢と生きざまに到底及ぶものではありません。

しかしながら、その明主様に、皆様と共に、少しでも近づかせていただきたいと願っております。

私の言葉が「教義に反している」ということですが、すべての源が主神にあるように、教義の源も主神にあるのではないのでしょうか。御教えの源も主神にあるのではないのでしょうか。

明主様御自ら、ご自身の御教えが神の啓示である旨、繰り返しお説きくださっています。

私は、主神が明主様を通して、私どもの心を少しでも主神に向けることができるようにと、日本語という言語をもって、ご自身の思いの一端を表現するために、教義というもの、御教えというものを私どもに用意してくださっ

ていると思います。

しかしながら、私は、教義も御教えも、それらを用意して下さった方の思いに心を向けることはありませんでした。

教義や御教えを自分の都合に合わせて理解し、活用していることに気づかせていただきました。

そうした自分自身を省みた時、その自分の姿を「古い」と感じざるを得なかったのであります。そして今、その古さから脱却させ、解放させてくださるために、主神は明主様を通して私どもを養い育ててくださっていると思います。

だからこそ、私は、今まで自分のものとしていた御教えを神様にお返ししなければならぬと思わせていただいたのです。古い自分自身を神様にお返ししなければならぬと思わせていただいたのです。

このようにして、あらゆる教義、教え、そして、それを自分の理解の中にとどめていた姿を神様に帰させていただくことこそ、「万教帰一の時」と仰せになった明主様のみ心、ひいては、すべてを包含し、また、すべての中に溶け込んでおられる神様のみ心にお応えすることになるのではないのでしょうか。

そして、神様が私どもを赦しのうちにお受け取りになり、あらゆる教義、教えに新しい息吹^{いぶき}を与え、明主様が「昼の宗教であり、太陽の救いである」と御教えくださいましたように、御教えが生きた御教えになる、と私は信じております。

ですから、私は、決して御教えを否定しているのではありません。

御教えは、主神が明主様を通して私どもを導いておられる、私どもにとって、そして何よりも、私自身にとって大切な御教えであります。

主神にとって大切な御教えだからこそ、私どもにとっても大切な御教えなのだと思います。

私は、明主様の数々の御教えやご事蹟、また、その生きざまを通して、それらのすべてを貫いている主神の思いに心を向けなければならぬと思っております。

教義の源である主神の思いに心を向けなければならないと思っております。

その主神の思いを感じ受けとめさせていただこうとする中で、`私の理解と認識を越えて、気づかせていただいたことを、明主様のお許しを得て、出来得る限り皆様にお伝えすることが私の務めではないかと思っております。

地上天国建設、人類救済という目標や利他愛の実践という活動は、他の多くの宗教団体も掲げており、宗教団体以外の組織や人々も掲げております。

明主様も同じ言葉をお使いになっておりますが、それは、主神が、明主様を通して、それらの言葉をお使いになって、それらの言葉の中に込めた主神の大切な思いを私どもに気づかせてくださろうとしているからだ、と思わざるを得ないのであります。

教義の源は主神にあります。御教えの源は主神にあります。

私は、私どものために、教義というものを用意してくださった主神に感謝し、そのみ心に皆様と共に応えさせていただきたいと思っております。

二つ目のご質問の、「私がグノーシス思想の影響を受けている」ということについてですが、私は、グノーシス思想について何も知りませんでした。

今回始めてそのような思想があることを知りました。

私を否定しようとする方々は、その必要性から、私の言葉が明主様の御教えに基づくものではなく、他の思想からのものであると断定しなければならない事情があたりだったのだと思います。

私は、私に対する疑いの目を向けて、尾行、盗聴、盗撮を実行し、また、私の言葉をグノーシス思想に帰着させてまでも、私を否定しようとする方々のご努力に驚いています。

私は、グノーシス思想については難しくよく分かりませんが、これからも、ただ一筋に、明主様が用意してくださった^{まこと}真の救いの道、全人類救済の道を、信徒の皆様と共に歩ませていただきたいと思っております。

三つ目のご質問の、真明が、世界救世教をネオ・クリスチャンの宗教にす

る、ということについてですが、本人に確認したところ、本人は、「全く事実ではありませんし、そもそも、ネオ・クリスチャンという言葉さえも初めて聞きました」とのことでした。

以上、私が申し上げたことを信じようとするのか、それとも信じようと思わないのか、それは皆様お一人おひとりのご意思でお決めいただきたいと思います。

平成 30 年 2 月 15 日

教主 岡田 陽一

自分の信仰と実践こそが決め手

世界救世教 ①之光教団

理事長 成井 圭市郎

皆様と共に、日々ご神業奉仕にお使いいただいておりますことを、明主様に心より感謝申し上げます。

さて、今般の教団の状況につきまして、繰り返しお伝えさせていただいておりますが、皆様と共にさせていただく姿勢をお伝えしたいと思います。

また、包括責任役員 4 人による ①之光教団への包括・被包括関係の解消、そして教主様をないがしろにしようとする行為については、断固たる処置を講じてまいります。

(1) 法的な対応として、包括・被包括関係の解消に関しては、無効訴訟の手続きを進めています。

(2) 組織的な対応としまして、共に教主様から「全く新しい信仰」をご教導いただき、信仰を共にしている「いつのめ教団」信徒の皆様との連携・協働を大切にして、私どもの取り組みを、より盤石なものとさせていただきます。

(3) 信仰的な対応——このことが最も大切であります。

私どもは、今、教主様のご教導により、「全く新しい信仰」を開いていただきました。それは、明主様のみ教えの神髓を求めさせていただく大切な信仰の道であります。この信仰の灯を消すことは、断じてできません。

「内報」が発行されていますが、熟読していただいて、私どもが持たせていただく姿勢をハッキリとしてまいりたいと思います。

このたびの教団における浄化は、一面において法律的な戦いとなっていま

すが、中心においては、明主様が「宗教改革」と仰っているように、私どもが明主様から教えていただいている信仰とは何か、という根本的宗教観に関わることであります。

私どもは今、「全く新しい信仰」の道を進むのか、一人ひとりに信仰が問われているのではないのでしょうか。

このたびの浄化の本質は、東方之光やいづのめ教団小林執行部との戦いではありません。法的な戦いでもありません。私ども自身の中にある、革正すべきものとの戦いなのではないのでしょうか。

私どもの中にも、既成宗教的な信仰や、自分本位、人間本位の信仰が色濃くあります。

ですから、私ども自身が、「メシヤの御名」にある赦しをお受けして天国に立ち返り、そうした自分を、同じような状況にある多くの人々と共に、主神に委ねさせていただく「想念の御用」に努めることこそが、最も大切な実践であると思います。

自分のことを外^{よそ}にして、他を批評・非難して解決されるものは、一つもありません。攻撃されれば、敢然として現実的に対応することは欠かせません。しかし、今、私どもを排斥しようとしているグループを、いくら攻撃してもそれで解決されるものではありません。

最終的に決めるのは、自分の信仰です。その信仰に基づく実践であります。

私どもは、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」という、明主様からかけがえのない信仰の実践を賜っています。

今、神様から赦されているこの実践を、「想念の御用」をもってさせていただくか否か——そのことに自分の存在がかかっているのではないのでしょうか。

ひいては◎之光教団、さらには世界救世教の存在そのものが、かかっているのではないのでしょうか。

そして、この実践を大切に自分の真情を、一人ひとりの信徒に呼びかけて共に実践していただくか否か——そこにかかっているのではないのでしょうか。

皆様に問いかけたことについては、私自身が心を決めて歩ませていただきます。私には、教主様にお示しいただいている「明主様の真実」に基づく「全く新しい信仰」をお受けします——と申し上げる以外に、選択肢はありません。

皆様も、各人、自分の立つべき位置を決めていただいて、共に、力強く進んでいただきたい。私が願うことは、この一点です。

いつのめ教団役員および職員の皆様へ

いつのめ教団 元・教務部自然農法担当次長

原川達雄

この度、いつのめ教団から「教主様のお考えは、み教えから外れた“異質な思想”」と題する資料などが、私の自宅に送られてきました。中には「冷静、沈着なご判断をお願いします」と書かれた書面も入っていました。

そこで私がどう対処すべきか家族4名で冷静に話し合った結果、いつのめ教団に「教主様のお考えやお言葉は明主様のみ教えに叶い、更に現代社会の問題解決に役立つ」について説明できる文書をまとめ、役員及び全職員に返信すべきであるという結論に至り、下記に私の考えをまとめ、皆様に披瀝ひれきすることといたします。

私は自然農法を正面から探求してきた経験があります。そこには病虫害は悪者だから皆殺しにするという一般的な考えはありません。

病虫害は神様が私たちに土の偉力“神の力”を確認させるために神様が準備した、神様の愛が籠こもった生物であるという認識を持っています。その根底には、「自然が神である」「神の愛は土に、森に、川に、さらに人間の体にまで満ちて、法則ある働きとエネルギーとして存在している」という認識があるのです。

全てを神の愛が覆おおっているという認識は、自然農法を学んできたものでも強弱あるとも思います。

この根底を強く意識している私は、教主様のお考えが素直に理解できるのです。しかしその視点を持たない人には、非常に難解で、理解不能であろうことも理解できます。よって訓練が必要なのでしょう。

今、人に頼り、物に頼る人が多い現代社会が抱えている問題を解決するために、教主様のご教導は一筋の光を与えていると言えます。

【現代社会が抱える問題】

団塊の世代が高齢化に向かいつつある今、同時に少子化も深刻化している現代社会は、今後、医療費や介護費が異常に高騰すると予想されています。後8年経つと団塊の世代が75歳になり、医療・介護が必要になる年代になります。

2025年以降は、その費用を国が賄えなくなる不安を抱えています。国は経済の活性化による税収アップと、医療や介護保険などの社会制度改革によって問題解決しようとしています。それだけでは難しいのではないのでしょうか。

【問題の急所は、人間の精神性やライフスタイルにある】

三大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞）は三大生活習慣病とも呼ばれており、健康を得るために、病気を医者任せ、薬任せにするのではなく、精神性と生活習慣を正すことによる解決が望まれます。

私は医療を否定するものではなく、医療・薬に頼る前に我々はすべきことがある、また神様より与えられている自然良能力に気づき感謝し、最大限引き出す心の訓練が重要だと考えています。

【教主様のご教導は、み教えに叶っており、精神性とライフスタイルの向上に役立つ】

教主様から「世界救世教とは？」において、「すべての人々は、神さまの子ども、つまりメシアとなるためにこの世に生まれてきたのだと私たちは信じています。私たちは、神の子として神さまに受け入れていただくためには、意識的に神さまに心を向けることが大切だと信じています」、また、浄霊、自然農法・自然食、芸術の活動は、神さまの子どもとなるための大切な訓練であるのご教導いただきました。

明主様のみ教えにも、「人間は神様の子ども」と解釈できる御垂示は数多

くあります。

「神とは、言い換えれば完全なる人間という事である、故に人間は努力次第で神にもなり得るのである、そうして本当の宗教の^や行き方は一步一步完全人間即ち世にいう人格完成に近づかんとする努力の生活であらねばならない、然らば完全人間とは如何なる意味であろうかという^と真理即ち神意を骨とし、人間生活を肉とみるのである」(神懸り宗教—岡田茂吉全集著述編第7巻P161)

「人間は神様の子であるから、子の苦しむのを喜ぶ親はないではないか」(宗教即奇蹟—岡田茂吉全集著述篇第9巻)

「人間は向上すれば神の子だし、墮落すれば罪の子になる」(昭和10年10月11日御講話—岡田茂吉全集講話篇第1巻)

神様のことについては、下記のみ教えがあります。

「大自然の動きは真理そのものである事は勿論である。そうして真理の具現者であり、宇宙の支配者である者、それを尊称して神というのである。故に、宇宙意志というも神の意志というも同一である。此理によって大自然そのものが神の意志であり、大自然の実相が神意の具現であるといえよう」(惟神医術—岡田茂吉全集著述篇第3巻P268)

「健康の真諦は自然順応であり、自然尊重である事である。(中略)健康こそ人間の本来であり、常態であらねばならない。(中略)異常体を正常体に復活せしむる事こそ神の御目的に添う事になるのである」(健康の真理—岡田茂吉全集著述篇第8巻)

「そうして本教の^{おしえ}教によれば人生の妙諦を会得し、真理に目醒め、日常生活は改善され、心中明朗となり、確固たる信念の^{もと}下、未来に^{わた}渉って迄も透見されるので、真の安心立命を得るのである。(中略)そうして本教のモットー

である地上天国を造る^{その}基本条件としては、先ず個人の向上であり、天国人たる資格を得る事である。此様な人間が増えるとしたら、世界は個人の集団であるから、やがては地上天国出現となるのは勿論である」(本教の誕生—岡田茂吉全集著述篇第8巻)

み教えからも、私たちは神様の子どもであり、既に神様の愛が自律的な働きとして、体に備わっているという認識を持つことの重要を教えられています。また、真の親である神様に向かう心の訓練が重要であることも理解できます。

【私の信仰体験】

私の56年間の信仰体験においても、人間は神様の子どもであると認識できたのです。私は24歳で結婚し、7年間子どもを授からずに悩んでいた時、師である平本直子先生から「子どもはいただくものではなく、預かるものだ」と教えていただきました。その言葉通り「預からせてほしい」と毎日お祈りしたところ、一人の子を預かることができました。この思いは子育てにおいても重要な意味を持ち、真の親の存在も意識することとなり、その一人息子も信仰を継承しております。

つまり、人間は神様の子どもだということは、それ以来私の信仰の基盤であり、自然農法の道を究める上でも意味を持ちました。神様が打ち出した自然農法が、人間にとって不都合なことはあり得ないとの思いで、研究し、成果を得ることができました。

例えば、土の偉力についても、雑草を制御し、病害虫を制御できる土は作物を増収させ、品質を高める機能を有した土であることが理解でき、我々は誰でも神である自然の働きを受け止めることができると認識できました。

最近の経験では、「家庭菜園が布教の突破口である」と新しい宣教の在り方を打ち出された渡辺前理事長が「技術中心になっている自然農法に『、(ポチ、チョン)』を入れなければならない」と言われたことがあります。

その言葉に対して、複数の職員が「人間が『、』を入れるということはお

かしい」と疑問を投げかけたのです。この2つの意見は矛盾する考えではなく、本来、自然の働きは既に「\ (ポチ=神の力の認識)」が入っている、その存在に気付いて、正しく対応することだと理解すれば何も問題ない。しかし、それほど我が集団においても、神様に向かう姿勢に対する認識が浅く、不足していることの証明であるとも言えます。

【ご教導によって、人間とは？について考える】

教主様は、神様の子どもとして神様に受け入れていただく訓練として「浄霊、自然農法・自然食、芸術の活動」があるとご教導くださいました。

私たちは、健康を得ようと技術・方法を大切にして、目を向けてきましたが、そうではなく、方法以外に大切なことがあるという理解が不足していたのではないのでしょうか。

全てにある“主神の働き”“大自然の働き”に合わせようとする自然農法であり、体に備わっている主神の愛である自然良能力をより活性化する浄霊（神示の健康、医学の盲点と自然良能力）であり、人間の神性開発の拠り所となる生け花であると捉えると、日々の生活が訓練として重要になると思えます。

こうした営みを通して、神性を宿した人間・完全な人間に向かったの訓練が大切であること。それが神様の子どもとなることであり、私たちの本当の親は神様であることを認識しなければならないことも理解できました。こうした人が増えることが、地上天国に近づくのではないかと考えています。

今教団は危機であり、日本の社会も危機であります。その危機を乗り切るために、主神の働きに目を向けるよう導いてくださる教主様の存在が、私たちにとって極めて重要であると考えています。

教主様のご教導を今後も継続していただける我々であることを願い、この意見書を返信として送ります。

以上

